

2026年9月吉日

一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会

【イベントレポート】

あばれる君・高橋メアリージュンさんが登壇！

“まだ履ける靴”がアフリカの子どもたちの“夢への第一歩”に。

10万足の靴と想いを届ける

「ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクト」発表会

日本国内で使われなくなったスポーツシューズやスニーカーの回収・寄贈をはじめ、アフリカ諸国の子どもたちへのスポーツ支援、日本とアフリカの子どもたちの交流促進に取り組む一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会 本社：東京都足立区千住1-4-1、（代表理事：中込 正典）は、2026年9月10日（木）、渋谷にてアフリカの子どもたちへスポーツシューズやスニーカーを届ける「ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクト」発表会を開催しました。

当日は、プロジェクトアンバサダーの青山学院大学陸上競技部長距離ブロック監督・原晋さんと元サッカー日本代表キャプテン・柱谷哲二さんに加え、スペシャルゲストとしてお笑い芸人のあばれる君とモデル・俳優の高橋メアリージュンさんが登壇。トークセッションや靴寄贈セレモニーで、会場を大いに盛り上げました。



発表会では、はじめに一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会 代表理事の中込正典が主催挨拶を行い、「1年で終わることなく、これから先長い期間でアフリカを支援していきたい」と本プロジェクトへの想いと覚悟を語りました。



続いて、プロジェクトマネージャーの中込祥太郎が登壇し、本プロジェクトの発表・説明を行いました。プロジェクト紹介動画（PV）の放映を交えながら、日本で使われなくなったスポーツシューズをアフリカの子どもたちへ届ける取り組みの概要や、今後のスケジュールについて紹介しました。来賓としてケニア共和国特命全権大使のモイ・レモシラ閣下も登壇しスピーチを行いました。



続いて、プロジェクトアンバサダーの原晋さんと柱谷哲二さんが登壇。アンバサダー就任のオファーを受けた際の率直な思いから、アフリカの子どもたちに靴を届けることの意義まで、長年スポーツ界の第一線で指導・活躍してきたプロの視点で語りました。原さんは「本プロジェクトを通じて、ケニア出身のアスリートが更に世界を席巻するのかな」と笑顔をみせ、本プロ

ジェクトが「世界長距離界を更に盛り上げていけるのではないかと」期待。「世界という領域でお手伝いしていきたい」と意気込みを語りました。柱谷さんは「サッカーは蹴るというボールと足との接触がある。健康や怪我を考えるとスパイクは絶対に履かないといけない。子供の頃のスパイクはモチベーションになる。そうした観点でもスパイクを履いてプレーする事はとても大切。どんな子供も平等にサッカーを楽しんでもらいたい」と熱い想いを語りました。



続いて、スペシャルゲストのあばれる君と高橋メアリージュンさんが登場。お二人は実際に寄付する私物の靴を持参し、ステージ中央のハイトテーブルへ置いてトークセッションを行いました。トークセッションでは、まずお二人がこれまでにアフリカを訪れた際のエピソードが話題に。あばれる君は「マダガスカルの小学校を訪れサッカーをした際に裸足でプレーしている子を目の当たりにした経験から、今回のプロジェクトは有意義だと思う」と真摯にコメント。続けて「僕はもちろんヘディングをしました」と笑いを誘いました。高橋メアリージュンさんも「アフリカの数カ国を巡った際に、現地の子どもたちからたくさんのエネルギーや心の豊かさを感じました。一方で、十分な医療を受けることが難しい環境もある中、靴を履くことで少しでも怪我を防ぐことにつながればいいな」と、厳しい環境の中でも逞しく生きる子どもたちに出会った経験と、靴が生活や健康を守るうえで欠かせないアイテムであることを、実感を込めて語りました。

続いて、3児の父であるあばれる君から、「子どもはなんせ成長が早い。長男から受け継ぐ時に、タイミングが合わずに履かない靴がある」と子育て世代ならではのリアルな悩みを明かしつつ、まだ履ける靴を誰かの未来につなげて寄付できる喜びを語りました。



高橋メアリージュンさんは、日頃から意識しているフードロス削減と本プロジェクトの共通点についても言及。「形が悪いというだけで廃棄されてしまう食材もたくさんあり、それはとてももったいないと感じています。今回のプロジェクトも、履けなくなった靴ではなく、まだ履ける靴を寄付するという温かいマインドがすごく素敵だな」と、まだ活用できるものを必要としている人へ届ける「循環」の考え方が、食も靴も同じであると語りました。

さらに、お二人が今回寄付する私物の靴のエピソードも紹介。あばれる君はオシャレなお店で買った思い入れのある一足を紹介。「これを履いて安全に遊んでほしい」と温かい想いを語りました。高橋メアリージュンさんは「撮影で1度しか履いていないお気に入りの靴を紹介。防水のため、雨の日でも安心して履いてほしい」と、思い出の一足を、次の人へバトンをつなぐ想いで寄付することを明かしました。



あばれる君と高橋メアリージュンさんのトークセッションの後、アンバサダー原晋さんと柱谷哲二さんが再登壇。ステージ中央に登場した「シューズ回収BOX」へ、登壇者全員が寄贈する靴を納める靴寄贈セレモニーを実施しました。原監督からは、青山学院大学のOBで昨年の箱根駅伝MVPである、黒田朝日選手のサイン入りのシューズを寄付。トレーニングを重ね、“シン・山の神”となった努力の一足をアフリカの子供達へ寄付し、襪を繋ぎました。あばれるくんは、お子様が履かれていた思い出の一足も寄付しました。この靴を履いて沢山あばれ回ってほしいと語り、会場は笑いの渦に包まれました。

BOXには、登壇者が書き記したアフリカの子どもたちに向けた直筆メッセージが記されており、会場のカメラに向かってアピール。最後に、アフリカの子供達への熱い思いを登壇者全員がそれぞれ述べ、温かい雰囲気イベントが終了しました。



発表会終了後には一般の方向けの靴回収イベントも開催。イベントを盛り上げるべく、大人気インフルエンサーのハルク君、竹脇まりなさん、猪鼻ちひろさん、志村美希さん、あいこさん、よしきさんが登壇。参加した方々からは50足以上の使わなくなったシューズが寄付され、アフリカの子供達へ夢を届けるメモリアルな瞬間となりました。



■「ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクト」とは

本プロジェクトは、日本国内で使われなくなったスポーツシューズやスニーカーを回収し、アフリカ諸国の子どもたちへ届ける国際社会貢献活動です。靴の寄贈に加えて、現地におけるマラソンやサッカーなどのスポーツ支援活動、日本とアフリカ諸国の子どもたちの交流を継続的に実施します。

日本国内に眠るスポーツ用品を循環させながら、アフリカ諸国の子どもたちの健康や教育、スポーツに参加する機会を支援することで、SDGs達成への貢献を目指します。

■プロジェクト概要

プロジェクト名： ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクト

支援対象国： ケニア共和国・ギニア共和国・セネガル共和国・カメルーン共和国・コンゴ民主共和国を含むアフリカ諸国

主催・総合プロデュース： 一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会

運営協力： 一般社団法人A-GOAL、一般社団法人インスパイアアフリカ協会

現地協力： 一般社団法人A-GOAL、現地の学校・スポーツ関連団体

日本側協力パートナー： Kids UP、青山学院、株式会社MPandC、賛同学校、足立区ほか

主な活動： スポーツシューズやスニーカーの回収・寄贈、日本とアフリカ諸国の子どもたちによる手紙・応援メッセージ・映像を通じた交流、マラソンやサッカーなどのスポーツ支援など

活動目標： 2026年度に年間10,000足以上、5年間で累計100,000足以上の寄贈

特設サイト： <https://www.dreamkidsafrica.org/>

■一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会について

一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会（所在地：東京都足立区千住1丁目4番1号）は、「ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクト」の推進を目的として、株式会社P-UP Worldが主体となり2026年7月に設立した非営利法人です。日本国内で使われなくなったスポーツシューズの回収・寄贈活動をはじめ、アフリカ諸国の子どもたちへのスポーツ支援、日本とアフリカ諸国の子どもたちの交流促進を主な活動として展開します。学校、企業、現地パートナーなどと連携しながら、スポーツを通じた教育機会の創出と子どもたちの可能性の拡大に取り組んでいます。

■株式会社P-UP Worldについて

株式会社P-UP World（本社：東京都足立区千住1-4-1、代表取締役 兼CEO：中込 正典）は、1998年の創業以来、携帯電話販売事業を起点に成長を続け、2020年に持株会社体制へ移行しました。現在はモバイル通信事業を中核に、英語学童保育「Kids UP」をはじめとする教育事業、飲食事業、コンサルティング事業など幅広い領域で事業を展開しています。資本金1億円、連結従業員数は約1,600名。本プロジェクトでは主体となって一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会を設立し、スポーツを通じた国際社会貢献に取り組んでいます。